

## マスコミソフィア会の皆様

この度は父、濱口浩三帰天に際しまして、お悔やみ頂き誠にありがとうございました。お世話になっておりました皆様に、父が病を得ましたこと、また本人の遺志により密葬として見送りましたことをお知らせいたしませず、誠に申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。

昨年12月自宅の庭で転倒し、腰を痛め外傷をおいしましたが、その後脳梗塞を発症いたしました。暮れから入院し、その後リハビリ病院に転院して加療しておりましたが、老齢なこともあり徐々に弱ってまいりました。6月17日の深夜、容態が急変し私と妹の到着を待って、逝去が確認されました。91歳という寿命に不足はございませんが、脳梗塞の早期の発見ができなかったことは、父にいくら詫びても足りない思いでございます。

大正11年に和歌山県に生まれ、玉川学園から上智大学新聞学科に学んだ父は、報知新聞から東京放送に入社し、マスコミの仕事一筋に歩んでまいりました。殊に報道というジャンルにおいては、<濱口学校>といわれるほど後進の指導に力を注ぎました。「報道のTBS」といわれる、その基礎作りに少しはお役に立てたのではないかと思います。また常々「マスコミに身を置くものは身辺と精神を清潔に」と申しておりました。いつも得意泰然失意泰然といい、変わらぬ姿勢を保っておりました。

それも上智大学新聞学科で学んだことが根幹にあったからこそでしょう。入社してからも暇をみては、恩師であるボッシュ神父様・大泉神父様の元を、社屋のある赤坂から四谷まで歩いてよくお訪ねしたようです。ですから晩年その上智大学から表彰を頂きましたことは、父にとって望外の喜びであり、何よりも嬉しかったことでしょう。

父は亡くなる数時間前に、イグナチオ教会の英神父様に洗礼を授けて頂き、パウロという霊名をいただきました。これは亡き恩人であるTBSの今道潤三様と同じ霊名であります。2010年に帰天いたしました母は、父と同じ放送の道を歩んだTBS一期生のアナウンサーであり、熱心なクリスチャンでございました。その母もきっと喜んで父を迎えに来てくれたことと思います。

両親はイグナチオ教会で結婚式を挙げ、葬儀を行って天国に旅立ちました。そして教会主聖堂の地下のクリプタで、二人揃って神の恵みの内に安らぐことになりました。

振り返ってみますと上智大学には、一方ならぬお世話になりました。とりわけ報道の世界に生きた父は、マスコミソフィア会にとっても愛着をもっておりました。

父はきっとクリプタから、その発展を見守っていることと思います。

これからの皆様のご活躍を心からお祈りしております。

長い間のご交誼、本当にありがとうございました。

濱口久仁子